

9月2日
1959年2月

行動 1月

主題 観又中

8 行分

創作壇の印象

1 現象的に見る

見崎士郎

7行分

母評を便し

勝を... 信は今年の小説
一つ 観らす
よんであるわけではない
のだから、かういふ文章をかくにあっては
散漫な印象をたよるよりほかには方がない。

(1)

書きゆすめることしあるたうし書きすきる
ことしあるたうしと思ふ。あまりに主観的に
書きすきる心ありとある。今年に
新年早々から文学に対する社会的関心が深ま
つてゆきさうな傾向を示してゐる。これは一
つの時代的雰囲気。一人々二人の個人的な
情熱が燃らし、お方のこは守い。さういふ傾向
は月をかきぬるにつれてますます顕著になり、
てきた。去年あたりは綜合大雑誌の有力な編
輯者のあふたに、創作掘をめぐりし、編輯し